

KOBE university STYLE

神戸大学

2010 SPRING Vol.13



百年記念館(神大会館)北側



六甲台キャンパス正門



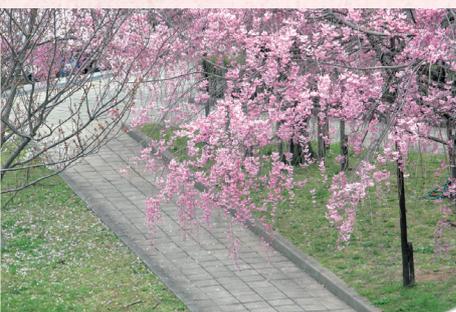
連携創造本部 先端研究推進部門棟北東

上：眺望館北側通路

KOBE UNIVERSITY STYLE

INDEX

特集・神戸大学登山隊	チベットの未踏峰に登頂	02
特集・国際文化学部	コクサイブンカ? Who?	06
馬場・馬術部	キャンパスに馬場がある	12
六甲台講堂	六甲台講堂再生	14
同窓会・校友会・育友会	卒業生のビジネスリーダーとの懇談会 / 学生歌作曲の福本寿朗さん死去	16
	農学部創立60周年記念行事を開催 / 第1回 学長表彰	17
保健管理センターだより	「発達障害」の方に理解と支援を!	18
歴史のひとこま	神戸大学ロゴマーク	20
神戸大学生の愛唱歌	「商 神」	21



経済経営研究所前庭



馬場西側バイク駐輪路



文学部南側テニスコート



経済経営研究所前庭



理学部 A 棟南西角

特集・神戸大学登山隊

チベットの未踏峰に登頂

中国・チベット自治区の東南部に広がる崗日嘎布(カンリガルポ)山群。30座を越す6000m峰すべてが未踏峰のまま残され、世界の登山家や学者から注目されています。この未探検地域にそびえるKG-2(6,805m)に2009年11月、神戸大学・中国地質大学(武漢)合同学術登山隊が、初登頂する快挙を成し遂げました。

特集
神戸大学登山隊



KG-2峰頂上の矢崎雅則隊員



登山ルート図



第2キャンプに到達した日中隊員

東北(27Km遠方)から望むKG-2(中央奥)

敗退から再挑戦

1986年、神戸大学はチベットのクーラカンリ(7,554m)の初登頂後、拉薩から成都まで学術調査旅行を行った際、カンリガルボ山群の存在を知りました。山群の最高峰、ルオニイ峰の初登頂を目指し、2002年に偵察隊、2003年に本隊(平井一正隊長)を派遣しましたが、残念ながら悪天候などのため敗退しました。

2006年11月、「神戸大学ヒマラヤへの挑戦」と銘打った記念パーティーの席上、カンリガルボ山群、阿扎氷河三姉妹峰への再挑戦を宣言しました。その際、中国地質大学(武漢)・神戸大学合同登山隊の雀児山(チェルー、6,168m)初登頂20周年を記念した新たな合同登山が、中国登山協会より提案されました。2007年5月、日中合同登山の契約を締結。10月、三姉妹峰に日中合同偵察隊を派遣し、立派で美しい中央峰KG-2峰の初登頂を目標に決めました。

頂上へ

2009年10月9日、先発隊は中国側先発隊と合流し拉薩に先行。翌10日、関西空港を出発した本隊が武漢入り。11日に隊旗授与など団結式を挙行し、12日拉薩に集結しました。15日、登山口の拉古(ラグ)まで、920kmのドライブに出発しました。

10月18日、1.5トンの荷物を積んだヤク23頭とともにベースキャンプ(4,320m)に入山。20日には、10人のポーター達の献身的な働きで阿扎(アタ)氷河4,440m地点にデポ・キャンプを建設しました。10月24日、第1アイスフォール上流4,660mの前進ベースキャンプ(ABC)に全員が集結し、29日には4,890mに第1キャンプ(C1)を建設。11月1日、氷河本流から離れて主稜線に登るアイスフォールを固定ロープ600m敷設により突破して、岩稜上に第2キャンプ(C2、5,680m)を建設し、頂上攻撃の態勢が整いました。

11月4日、中国側5人、日本側4人がC2に入り、翌5日、中国側はC2から頂上に向かいました。しかし、深い雪と厳しい稜線の登攀に3人が途中で敗退しました。徳慶欧珠(Deqing Ouzhu)と次仁旦塔(Ciren Danda)の2人が登攀を続け、午後1時18分、KG-2の頂上に立ちました。

日本側4人は、第3キャンプ(5,910m)を建設、2人が泊まりました。翌日は悪天候で停滞し、7日、矢崎雅則、近藤昂一郎が午後3時36分、登頂しました。

(隊長 井上達男)



満月が残る空で朝焼けに輝くKG-2(左)。左手から稜線に取り付き尾根伝いに頂上を目指した(第1キャンプで)



頂上で神戸大学旗を広げる近藤昂一郎隊員

◀カンリガルボ山群・KG-2峰

約280kmの長大な山脈を構成するカンリガルボ山群は、インドやミャンマーとの国境に近く、外国人の立ち入りが厳しく制限されている。最高峰は神戸大学が2003年に挑戦したルオニイ峰(6,882m)。KG-2峰は阿扎(アタ)氷河三姉妹峰の中央峰で、ルオニイ峰の北西に聳える。標高は旧ソ連の地図から6,703mと推定されていたが、今回、登頂隊員のGPSにより6,805mと判明し、中国チベット登山協会もこれを認定した。山名については、現地、拉古村の村長の意見や村人達からのヒヤリングで、ロブチン峰(英語表記(Lopchin)、中国語表記(洛布青、Lou bu qin))の名を得た。チベット語で雄鷹、勇敢、智慧に加えて大学の意味を持っている。中国地質大学と協議の結果、白鷹の峰・ロブチン山名として定着させたいと考えている。

登頂記録

矢崎雅則隊員・近藤昂一郎隊員

《矢崎》 11月7日3時半、起床。C3テントから外を覗く。晴天。「今日は行ける！」。さつさと朝食を済ませて、C2から登ってくる予定の中国チームを待つ。近藤が「寒い、寒い」というので、ガスを空焚きして暖を取る。

7時半、中国チームが途中で引き返したという無線が入る。我々2人だけでアタックするしかない。

8時、出発。ほぼ快晴。視界良好。

《近藤》 矢崎さんの出発の掛け声に気を引き締め、「さあ、行きましょう！」と威勢良く応えた。

9時、6000mを越えた辺りから急斜面になる。アイゼンに履き替え、一気にスカイラインめがけて駆け上る。空に向かって登っているみたいだ。やがてパウダースノーの深雪となり、登れど登れどずり落ちるラッセルに苦しむ。

6450m辺りで、今まで見えなかつた景色が見えてきた。あまりの雄大さに息をのむ。頂上までがはつきり見通せ、益々気持ち昂ぶってきた。頂上まであと100mぐら

いで、ラッセルが一層厳しくなる。積もっているパウダースノーを取り除き、下の堅い斜面を踏みしめてやると登る。ガスの中でまったく先が見えない。タイムリミットと想定した15時が近づく。もうだめか。

その時、目の前に氷の壁が見えた。斜面を登りきり下に向かつて「矢崎さん、着きました！最後の雪庇の真下です！」と声を張り上げて叫んだが、寒さで声がかすれ届かない。何度も叫ぶが風で遮られる。逆に矢崎さんから「下りよう」という声が聞こえてきた。

《矢崎》 体力は限界だった。C3キャンプを出て既に7時間。6700m付近で、胸までの深い雪に喘いでいた。頂上まであとわずか20m。だが、遙かに遠い。

雪が降り始め、風も出てきた。現在15時。もつ、無理だ。だが、前に行く近藤の心は頂上を目指していた。「もうすぐです、来て下さい！」。もう少しなら……。ロープを掴んで重い体を引き上げる。なだらかな斜面に出た。本当にもうすぐだ。だがここで、急に足に力が入らなく



頂上直下で最後の壁を登る近藤昂一郎隊員

なった。もしスリップすれば、近藤もろとも数百m滑落する。最後の力を絞り出し、一歩一歩足を運んだ。そして10分も歩いたろうか。朦朧とした頭に、近藤が無線でC1に叫ぶ声が聞こえた。「着きました！」

15時36分、登頂。もう登らなくてよいのだ。近藤と握手し、写真を撮り合

う。近藤は隊旗、大学旗を掲げた。風でうまく広げられない。

16時、ゆっくりと下山を始める。19時前、日没。しばらく歩くと真つ暗になり、雪が降り始めた。前方に見えた明かりを指して歩いた。迎えに来た石丸のヘッドランプだった。

20時、C3に帰着。長い1日が終わった。

友好の登山

合同登山では文化や習慣、価値観の相違から、意思疎通や意見の対立が発生しがちです。今回の合同学術登山隊はチベット人、漢人、日本人の学生が中心となる混成部隊でしたが、厳しい自然環境下での過酷な荷揚げ、危険なルートの開拓など、苦労を分け合い協働することを通じて深く異文化交流ができました。「同じ釜の飯を食った仲間」という言い方がありますが、登山を通じて培った友好関係は、国際化の時代に様々な場面で相互理解を発展させる力になると信じます。また、チベットの未踏峰にチベットの若者が初登頂を成し遂げたことも、大きな価値があると思います。

下山後、武漢空港に降り立ち、荷物を満載したカートを押してロビーに出ると、何やら大きな横断幕があり、行く手を遮るほどの人出でした。花束を持った若い女性たちが手を振っています。テレビニュースでなじみの有名人を出迎えるシーンです。どんな人を出迎えかと思っていたらいきなり花束がこちらに差し出されてびっくり。中国地質大学の構内に入るとやはり大きな横断幕に

「熱烈歓迎!祝カンリガルボ山群初登頂」とあります。報告会は大教室に100名を越す聴衆が詰めかけ、学長以下関係者多数の祝辞と表彰を頂きました。合同登山への期待の大きさに驚くとともに、成功してよかったと安堵しました。

(隊長 井上達男)



下山後、中国・武漢空港で歓迎を受ける隊員ら

ふもとの村で

ポロンツァンボ川の最奥の集落、拉古の村には「来果小学校」という小学校があり、8歳から12歳の子ども、約30人が通っています。ほっぺを真っ赤にした子供達は元気そのもので、以前の日本の子供達もこうだったと懐かしく思いました。私たちは下山後にこの小学校を訪問し、高校教諭の山本恵昭隊員が先生となって紙飛行機づくりの特別授業を行いました。授業後、日本から持っていったおまけつきのお菓子や、中国隊員が用意していた文房具などをプレゼントすると、はじめは恥ずかしそうにしていた子供達の笑顔がぱっとはじけました。帰るときにはすっかり友達になってしまいました。

(山田健、山本恵昭)



紙飛行機づくりの後、子どもたちと(拉古村の来果小学校で)

雲南省北部の昆虫調査報告

拉薩からのルートは昆虫調査としては気温が低すぎると予想し、登山隊の別動隊として、ガイドの学生及び運転手を含む計7人が昆明からチベット入域を試みました。

日程は、9月18日より9日間で、行程は、昆明—麗江—香格里拉—奔子欄—徳欽(梅里雪山の手前の村)—香格里拉—平浪—昆明の1,857kmです。最高高度は、約4,300mです。特筆する成果は、ツツレサセコオロギ類のストック数種と、世界で一番小さいトノサマバツタのストックを得たこと、そして中国側から加わった何祝清君(華東師範大学修士課程)が捕まえたコオロギが、新種として記載されたことなどです。

チベットへの許可が下りなかったため、四川省沿いにカンリガルボ山群に近づこうとしましたが、写真撮影禁止と聞き、急遽変更して、北西隅の梅里雪山方面に向かい、途中標高3,000m位でフタホシコオロギを多数捕まえました。本種はヨーロッパから琉球諸島まで広範に分布しますが、休眠がなく、通常北や高地には見られません。どうやって越冬するのか、今後の研究が待たれます。

(竹田真木生)



学術隊員が発見した新種のコオロギ

ご支援への感謝

この遠征にご支援・ご協力を賜りました学長・理事はじめ神戸大学の関係各位、各学部の同窓会関係者、卒業生、応援していただいた神戸大学の学生の皆さんに厚く御礼申し上げます。募金活動には卒業生や神戸大学山岳会を中心に一般市民、甲南山岳会、日本山岳会、など全部で400名近い方にご寄付を頂戴しました。心より感謝申し上げます。また、この厳しい経済状況の中でご援助いただきました企業に御礼申し上げます。なお、今回の成功は合同隊の相手方である中国地質大学武漢校との協力関係なしにはなかったことを付記し、中国側の関係者に敬意を表し御礼申し上げます。

合同学術登山隊実行委員長 山形裕士
(農学研究科教授)



隊員の構成(年齢は登頂日現在)

日本側(7人)

実行委員長 山形裕士(59歳:神戸大学農学研究科教授)
隊長 井上達男(62歳:林ダイフク研究・研修センター)
副隊長(秘書長) 山田健(54歳:兵庫県東播磨県民局)
登攀リーダー 山本恵昭(51歳:神戸市立兵庫商業高等学校)
隊員 矢崎雅則(35歳:兵庫県洲本農林水産振興事務所)
近藤昂一郎(23歳:大学院理学研究科学生)
石丸祥史(19歳:農学部学生)



(左から)山田健、井上達男(隊長)、山本恵昭、石丸祥史、矢崎雅則、近藤昂一郎の各隊員

中国側(10人)

隊長 董範(Dong Fan)(49歳:教授)

学術隊(6人)

リーダー 竹田真木生(59歳:神戸大学農学研究科教授)
近藤伸一(65歳:兵庫みどり公社)
新井哲夫(64歳:山口県立大学)
相坂耕作(60歳:赤松の里昆虫文化館)
田中誠二(57歳:農業生物資源研究所)
何祝清(華東師範大学修士課程学生)

神戸大学山岳部・山岳会

山岳部の歴史は古く1915年に神戸高商山岳部として発足以来、台湾、南米、カラコルム、チベットなど世界各地で歴史に残る初登頂や実り多い学術調査を実施してきました。

海外登山の歴史

1934 第一次台湾遠征
1936 第二次台湾遠征
1958 パタゴニア探検隊 アレナレス峰3,437m初登頂
1960 チリ中央アンデス探検隊 神戸峰5,008m初登頂
1963 ボリビア・アンデス探検
1968 カナダ・ユーコン学術登山
1976 第二次カラコルム遠征隊 シェルピ・カンリ峰7,380m初登頂
1986 チベット学術登山隊 クーラ・カンリ峰7,554m初登頂
1988 神戸大学中国地質大学合同登山隊 雀見山(6,168m)初登頂
2003 カンリガルボ山群 ルオニイ峰登山隊(敗退)
2009 カンリガルボ山群 神戸大学中国地質大学(武漢)合同学術登山隊
ロブチン峰(KG-2峰)6,805m初登頂

コクサイブンカ?



特集
国際文化学部

Who?

1992年開設と、神戸大学で2つ目に若い国際文化学部。今も国立大学で唯一、「国際文化」の名が付く。ユニークで先端的な研究成果を生み出し、受験生の人気も高まっている。でも、文学部ではないし、社会学部でも、外国語学部でもない。コクサイブンカ、それは何者だ。そして、どこへ行こうとするのか。

「どこに向かうか」を課題に

昨年2009年は、ベルリンの壁が崩壊してちょうど20年が経過した年でした。それを機縁に秋にはテレビ・雑誌などのメディアであの出来事が繰り返し取り上げられていました。昨年夏からの世界的な市場経済の悪化、金融危機が、世界の向かう方向性への不安をかきたてていたからか、それらの報道の多くは、壁崩壊が一体何を意味したのかをもう一度根本から再検討するように迫るものでした。このような解釈の揺れ自体が壁崩壊の出来事がどれほど大きな歴史的な地盤変動に関わるものであるかを示しています。

われわれの国際文化学部も、ベルリン壁崩壊や湾岸戦争など、20世紀末以降に世界の各地で展開された激動に押し出されるようにして、1992年に誕生しました。いささか大げさな表現になるかもしれませんが、われわれは、そういう世界は一体どこに向かっているのか、という問いを課題にしている学部・研究科です。しか

しこの実に大きなテーマにドンキホーテ的に立ち向かうわけにもいきません。既存の学の体系には収まらない切り口の斬新さをいかに切り開いていけるか。そういう困難な課題をわれわれは抱えながら奮闘しているところです。

約20年足らずのわれわれの歴史ですが、ここを旅立ち、各領域で活躍している多くの卒業生の方がいます。また広く国際的にその研究教育活動の場を繰り広げている教員も多くいます。そうです、世界だけではなくて、われわれ自身が一体どこに向かっているのか、そういう問いにとりつかれた学部・研究科であるようです。今回の特集では、それらの取り組みのなかのいくつかを皆さんに紹介します。皆さんもぜひ一緒にこの問いの輪に参加してみてください。

(水田恭平 学部長 モダニティ論コース)

旅をし、旅を考える

「コンヴィヴィアリティ」という英語がある。「共に生き、喜びを交えること」という意味だが、さて、今の世界は逆に、身勝手に楽しみを交え合うイメージに溢れていないだろうか？メディアを伴走者として自ら動き、現場を見据えて初めて、不安や脅威ではなく、喜びをもって世界に向き合える。朝日新聞の記者として活躍する玉置太郎さんは、そんなことを国際文化学部で学んだようだ。

大学卒業後新聞社に入り、初任地の島根、さらに京都で記者をしています。日々いろいろな取材がありますが、「現場を見て、人に話を聞き、活字にする」という作業はどこに行っても同じ。そんな仕事を楽しむ感覚は、大学時代にのめり込んだ「旅」が育ててくれました。

1年生の夏休みに訪れたタイを皮切りに、ファミレスの深夜バイトで稼いだ資金とリュック一つを手に、中国や東南アジア、中東諸国を休暇ごとに歩き回りました。そんな旅の途中、中国の寝台列車で乗り合わせた中国人家族との会話が、無邪気な旅行に疑問を投げかけました。日本人である自分が、経済格差を利用して旅行していること、戦争の歴史を意識せずに中国を訪れていることを痛感させられたのです。

「自分に旅をする資格はあるのか？」こ

の疑問に答えを見つけようと、必死で本を読んでゼミで議論し、「旅に出て、人に出会ったからこそ、この疑問を考えることができた。だから旅を続けるんだ」と思い至りました。4年生の冬にはゼミで学んだ文化研究の手法を用い、旅の体験を卒業論文にまとめました。

取材とは見ず知らずの現場に飛び込み、初めて会う人から突っ込んだ話を聞く作業です。その一番の醍醐味は、初めに思い描いていた筋書きが裏切られ、それ以上の筋書きが生まれる瞬間です。それは旅に似ています。取材直前は緊張感から足が前へ進まなくなるものですが、そんな時は卒論を思い出し、「今から旅をする」そう言い聞かせて現場へと足を踏み出します。

今力を入れているのは、海外から日本

に移り住んだ人々の取材です。工場にデカセギに来た日系人や漁船に乗るフィリピン人、離島に住むスリランカ人まで、島根にも5千を超える海外からの移住者がいます。そんな人々との出会いを通して自分の世界を広げる喜びを、旅を繰り返し、旅について考え抜いた4年間で、体に染みこませてくれたのだと感じています。



2006年卒 朝日新聞社勤務 玉置 太郎

特集
国際文化学部



世界と取り組む

コクサイブンカの教育研究者たち

国際文化学部の教員は約70名。研究分野は幅広く、多岐にわたる。その研究の一端から、コクサイブンカの今を見る。

おいしい“水”の作り方

今年度の「国際コミュニケーション演習 I」では27名の日本人学生と17名の交換留学生の登録がありました。2対1ではないですが、合成には適当な比率です。しかし、このままでは単にHとOの分子の集合体でしかありません。そもそも日本人学生は英語能力を伸ばしたいし、留学生はむしろ日本語能力を伸ばしたいという思いがあり、語学的側面だけでなく異文化理解を深めたいという希望もあります。また、

流暢さ(fluency)を高めたいと思う学生もいれば、正確さ(accuracy)を優先したいという学生もいます。最初から、どのように転んでもすべてを満足させる授業はできない、というのが引き受けた時の開き直りでした。

それならば、ペアやグループによるタスクを中心にした協働学習の方法を取り入れて、化学反応を起こせないかと考えました。例えば、日本人と留学生のペアワーク

で今年の漢字を選んだり、アメリカの大学の日本語クラスとの共同掲示板(BBS)での交流、グループでのプレゼン課題など。ニュースレポートでは、互いの学習言語で書いてきたレポートをもとに、日・英双方の言葉でコメントをつけ合いました。

コミュニケーションが主体で、英語力や日本語力も「少しは」上げることができる、というぐらいがちょうどよいバランスだったのではないかと考えています。

国際コミュニケーションセンター／国際文化学研究科教授 加藤 雅之

アボリジニの人々とともに

オーストラリアの先住民アボリジニは、オーストラリア大陸に5万年前から暮らしてきた狩猟採集民ですが、18世紀に始まったイギリスからの入植によって、その生活は大きく変化しました。私は大陸北部海岸にある小さな村の調査をしています。ここは20世紀に入る頃まで伝統的な生活が続けられてきた地域です。それ以降も、大きな変化を経ながらも、独自の文化が維持され続けています。これまで虐げられ、差別されているというイメージで語られてきたアボリジニ女性が貨幣経済の流入などの社会変化のなかで、どのような経験をしてきたのかを中心に調査を行ってきました。

フィールドワークでは、まず、彼らの言語を学び、日々の生活に長期にわたって身を寄り添わせます。そのような調査を通じて、アボリジニの女性たちは、一方的に抑圧された受身の存在ではなく、積極的に変化をとりこみ対応しつつも、伝統文化を調整し維持する側面で、積極的役割を果たしていることがわかってきました。

アボリジニの文化は他の世界から孤立しているのではなく、オーストラリアという大きなまとまりの一部であるという事実にも目を向けるようになりました。特に20世紀末から、アボリジニは、一方では多文化主義的立場をとるようになったオーストラリア国家のなかに、もう一方では国際的な「先住民」という言説のなかに、位置づけられる

ようになりました。彼らはオーストラリアの先住民として、国家の歴史のなかに含まれるようになり、国際的な場面でも重視されるようになりました。現在では、そのことが、ローカルな発言や行動にも影響を与えるようになってきました。このようなグローバルな場とローカルな場の動的な関係には非常に興味深いものがあります。



アジア・太平洋文化論コース教授 窪田 幸子

中東における予防外交

中東での紛争やテロリズムの解決が国際社会の課題となっている近年ですが、わたしたちは、「中東における紛争の予防」方法について構想することにしました。平和な時代を思い浮かべるビジョンを構想したいと考えたのです。

「予防外交」とは、残念ながら一般にはあまり知られていない国際政治用語ですが、先制攻撃と反対の考え方で、武力攻撃ではない方法、たとえば早期警報や外交活動などにより、紛争発生を未然に防ぐという考え方です。予防外交は、最初は主にヨーロッパで発達した考え方で、ベルリンの壁の崩壊にもこの考えが貢献したと言われます。

本研究は、ヨーロッパ政治の知恵と、中東の内在的な理解の融合により、政策的オリエンテーションを目指すのが特徴です。異文化理解は、それ自体が価値あることですが、国際政治に高い成果をもたらすことができるものです。

当プロジェクトでは、中東の人々に、予



防外交という考えを普及することも目標の一つとしています。予防外交は、無用な敵意や不信感を取り除くために効果的な価値観であると知ってもらいたいのです。そこで、世界初となる中東の五言語によるウェブサイトを構築しています。また、2009年7月には、ドバイのシンクタンクで、10名の日本人がこれまでの研究成果を披露し、

好評を博しました。

まだ、ほんの一步を踏み出したに過ぎませんが、私たちの夢は、研究成果が少しでも中東の紛争の予防や解決に貢献することです。私たち研究メンバーの合い言葉は、プロジェクトの研究成果が「ノーベル平和賞を受賞するまでがんばろう!」です(笑)。

異文化関係論コース准教授 **中村 覚**

アートによるコミュニケーション

私は大学時代にフランス文学を専攻し、19世紀の詩人ボードレールや小説家のゾラに関心を持ってきましたが、その一方で、パリ第4大学に留学して以来、西洋美術史、とりわけ絵画に強く惹かれるようになりました。ボードレールやゾラは重要な美術批評家でもありましたので、現在の仕事の中心は、19世紀後半のフランスという近代市民社会の発展期における文学と美術の相関関係の研究です。そこには、歴史学や社会学、政治学や経済学、自然

科学や精神医学、あるいはジェンダーや植民地主義の問題も関わってきます。こうした様々な学問分野の成果を融合しながら、芸術家が何を発信し、同時代や後世の人々はそれをいかに受け取ったか、現代におけるその意義は何かを考えたいと思っています。

私は、国際文化学部で芸術文化論コースに属していますが、ここでは現代社会とアートの関わりが重要なテーマとなります。たとえば美術館や劇場、ホールは現代

の私たちとアートとを結ぶ重要な場となっています。国際文化学部では2009年度から学芸員の資格を取得できるようになり、またアートマネジメントに関する授業も開かれています。アートによるコミュニケーションは、これからの社会にますます必要なものとなるでしょうし、生活や社会を新しく「デザイン」することは、私たちの重要な課題となるでしょう。

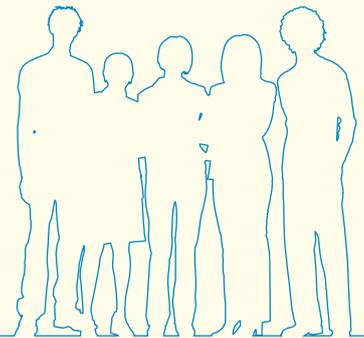
芸術文化論コース教授 **吉田 典子**

国際文化学部は
4講座12コースから
構成されています

講座	コース
情報コミュニケーション論	言語コミュニケーション論／感性コミュニケーション論／ITコミュニケーション論
現代文化論	モダニティ論／先端社会論／芸術文化論
異文化コミュニケーション論	異文化関係論／多文化共生論／越境文化論
地域文化論	日本文化論／アジア・太平洋文化論／ヨーロッパ・アメリカ文化論

自問自答を続けて

卒業生たちの現在



国際文化学部は1997年以来、累計1,756名の卒業生を企業・官庁・国際協力組織・NPOなどに送り出してきた。学部が作った作品ともいえる卒業生のその後から、コクサイブシカの未来を見る。

特集 国際文化学部

留学で得たもの

中国留学は私にとって大きな挑戦となりました。1年間という限定された留学期間の中で、遊びも勉強も、全て自分で選択できるおもしろさもある半面、思うように伸びない語学力とタイムリミットの間で歯がゆさを感じたことも多々ありました。その中でいつも乗り越えるきっかけを与えてくれたのは、留学生活を通して得た友人達です。それぞれの目標と夢を持って努力している、国籍も価値観も多様な友人達と切磋琢磨しあい、自分に挑戦してきた結果、現在の私があります。いま私は、今年5月に開幕する上海万博のプロジェクトチームで日々奮闘しています。

こだわり捨てず、軽やかに

現在私は国際協力機構(JICA)中部国際センターに勤めています。政府開発援助(ODA)の一環として、開発途上国の行政官等を対象に、産業技術や環境、気候変動対策といった分野の研修コースを企画、実施、評価する仕事をしています。仕事の主な内容を端的に表現すると、「調整業務」です。国内外の関係者とやりとりをしながら、研修をより効率的に、効果的に運営するのが私の仕事です。

世界各国の関係者と仕事を進める中で山ほど起こる、自分の「常識では考えられない」事態にいちいちめげずに、ある時は「へーそんなもんか」と軽やかに受け流し、またある時は「いやいやそうは言ってもこうしてもらいます」と粘り、辛かろうが苦しかろうが「ま、何とかやってきましょうか」と、ある種開き直って前に進んで行く冨太さは、やはり「コクブ」で学んだものだと思うのです。



答えはチャレンジから

「国際的」とは? 「グローバルな視点」とは? 大学の講義の中では、これらのヒントは与えてくれますが、答えを見つけるのは自分自身以外の誰でもありません。見たことのないものを知るために行動する時、特に一人で海外に行き、知らない異文化に飛び込んで行ったり、大勢の知らない人に囲まれたりするとき、時には大きく傷つくこともありましたが、留学をはじめとするどの経験を取っても、今思い返せば全て自分の血肉となっていると感じ、今でもワクワクしている思い出が多く残っています。この好奇心を行動に移すチャレンジ精神が、私が国際文化学部で学んだ財産かもしれません。

2008年卒 三菱商事(株)勤務
塩見沙知子

2007年卒 国際協力機構(JICA)勤務
市枝 健郎

2008年卒 (株)コングレ勤務
中村 春水(左端)

海外協定校

-  **中国** 中国人民大学、華東師範大学、北京師範大学、浙江大学、香港大学、北京外国語大学
-  **イギリス** シェフィールド大学、バーミンガム大学、マンチェスター大学
-  **アメリカ合衆国** ジョージア大学、ユタ州立大学、メリーランド大学、ワシントン大学、テネシー大学
-  **オーストラリア** カーティン工科大学
-  **フランス** ニース大学、パリ第7大学
-  **ドイツ** ハンブルク大学

-  **韓国** 釜山国立大学、済州大学
-  **デンマーク** オーフス大学
-  **ベトナム** ベトナム国家社会人文学科大学
-  **ロシア** モスクワ教育大学
-  **イタリア** ボローニャ大学
-  **ポーランド** ワルシャワ大学
-  **フィリピン** アテネオ・デ・マニラ大学
-  **ルーマニア** パベシュ・ボヨイ大学



あるダイアログ

F 率直に言って、国際文化学部、通称「国文」とは、どのような場所ですか？

T 社会から発せられる「右向け右」の号令に、すぐに従うことはせず、「なぜ右を向かなければならないのか」を問う力を身につけることができる、そしてそこで得た思考力と情報^{インテリジェンス}を武器に、真の社会人として自分の意志に忠実に生きて行くことができる。言わば「生きるための学問」を習得できる場所だと思います。

F それは素晴らしい。ですが今あなたが言ったことが、まさに「国文」という場所が発している「右向け右」の号令である、という矛盾がありますね。

T 仰る通りです。号令に対する抵抗の姿勢が、実は号令への追従になっている。この矛盾の理由は、おそらく「国文」という学部全体の専門性の欠如にあると思われます。私は現在、芸術文化論という講座に所属し、音楽と社会の関係について研究していますが、音楽学者ではありません。社会学者、というのも違うと思います。史学、哲学、文化政策学、アーツマネジメントなど、多くの専門領域に属しながら、同時に全てに属していない孤立を感じています。専門家としての肩書きを持たない故のアイデンティティの分裂と不安定、これは国文で学ぶ学生たちに悉く襲いかかる脅威です。ですが、この不安と対峙し、行動によってそれを解消することで、自分という人間をしっかりと確立することができるのではないのでしょうか。そのとき初めて、先程の矛盾が解決されると思います。

F 孤立こそ独立への道、といった所でしょうか。具体的に、何か行動をなさっているのですか。

T 実際に行動に出たのは、ポーランド留学から帰った2007年からです。東欧の寒国で「ガイジン」として暮らし、自己を見失いそうだった時、音楽に人生を捧げる人々と出会いました。ショパンの音楽にのめり込んで、ピアノという楽器の表現可能性を再確認しました。そうした経験を原動力に、帰国後「コンサートプロデューサー」として活動するようになりました。目下「コンサート」という空間を作ることを通じて、自己と自分の居場所を構築しています。

F 「国文」は、そうした自律の始発駅のような場所なのではないですか。



Copyright©安田菜都美 All Rights Reserved.

2008年卒 国際文化研究科博士課程前期課程在学中 福島 寿史

この特集は次の方が担当しました (50音順)

小笠原 博毅 准教授、柏木 治美 准教授、貞好 康志 准教授、水田 恭平 教授、村尾 元 准教授

●就職先の例 (2009年3月卒業者)

【製造業】

サントリー、イッセイ・ミヤケ、大日本印刷、新日本石油、帝人、旭化成、NEC、日立製作所、住友電気工業、シャープ、東芝、富士ゼロックス、ソニー、三菱重工業、クボタ、キリンビバレッジ

【運輸業】

全日本空輸、日本郵船、三菱倉庫、関西国際空港

【卸売・小売業】

伊藤忠商事、三菱商事、住友商事、丸紅、千趣会、高島屋、阪急百貨店、三越、そごう

【金融・保険業】

住友信託銀行、みずほフィナンシャルグループ、東京海上日動火災保険、日本生命保険、損保ジャパン、大同生命保険、池田銀行、オリックス

【学術研究、専門・技術サービス業】

サイバードホールディングス、コングレ、アド・ウォーク、ジャム・デザイン、西村あさひ法律事務所

【情報通信業】

毎日新聞社、NTT データ、NTT 西日本、楽天、共同通信社、中日新聞社、NHK、フューチャーアー

キテクト、日本ヒューレット・パッカード、サイバー・コミュニケーションズ

【その他】

ヒルトン大阪、日本旅行、近畿日本ツーリスト、えんびつの家デイクアセンター、キャリアデザインセンター

【公務員・教員】

外務省、鳥取市役所、京都府庁、石川県庁、兵庫県教員、京都大学図書館

キャンパスに馬場がある

馬場がある、馬がいる。六甲台地区の東部、工学研究科と学生会館の間に、3600平方メートルの空間が、のびやかに広がっています。大学の真ん中に、なぜ馬場があるのでしょうか。

その理由(わけ)は

馬術部は2008年、創部80周年を迎えました。多くの運動部と同様長い歴史を持っていますが、生き物が相手ということと専用の馬場を必要としている点で、他部にはない特色を有しています。関連年表をご覧ください。

このように現在の馬場の原形ができたのは1936(昭和11)年です。もう少し具体的に説明すれば、学校の鐘が聞こえる範囲で用地を求めたものの適地が見つからず、たまたま地主の松本速瀬氏が卒業生(高商2回)だったため、造成費用を負担したうえ土地も無償で貸与して下さったのです。

なぜ現在、馬場が六甲台キャンパスの重要な一角を占めているのかの答えは、OBの絶大な援助を受けて馬場が作られ、周辺環境は変化しましたがその位置は変わらず、標高が上がっただけだといえましょう。その後も水害・火災、学部移転や大学全体の総合計画などの余波を受けながらも、大学の支援のもと、現役部員や卒業生・歴代部長などの努力で現在地に存在し得ているのです。

今では1936年に造成された谷間時代の馬場を知る人も希少ですが、深山幽谷の桃源郷のイメージだったと聞きます。これからも若人の心身練磨の場所として、また全学的には神大のステータスシンボルとして存続してほしいものです。

永田 實(馬術部OB、教育学部1969年卒)

【関連年表】

- 1924年 神戸大学の前身のひとつ、神戸高商の馬術愛好家が同好会として活動開始
- 1928年 上筒井台学舎(現神戸市中央区)の東側に、嘉納治兵衛氏(高商2回)の寄付で厩舎を建設
同年学友会馬術部として正式に発足
- 1929年 学校自体が六甲台の現在地に移転し、厩舎は解体撤去
神戸乗馬倶楽部の厩舎を借りて活動
- 1936年 卒業生から所有地の無償貸与を受け、現在の学生会館と工学部との間の谷を造成し、馬場と厩舎を建設
- 1938年 阪神大水害で厩舎に大きな被害
- 1950年 国有地に移管
- 1952年 厩舎焼失、神戸乗馬倶楽部の馬房を借用
- 1953年 厩舎再建
- 1959年 工学部移転工事のため六甲台グラウンドに仮厩舎
- 1960年 現在地で活動再開

アルバイト

馬の購入やえさ代など、馬術部の運営に必要な費用は少なくありません。大学の補助やOBの寄付、学生馬術連盟の交付金もありますが、大半は部員のアルバイトでまかっています。競馬場や乗馬クラブで馬の世話や清掃を部として引き受け、部員が交代で通っています。馬が、馬術部が好きならではのことです。



早朝の馬場。工学部学舎の向こうに神戸市街地と大阪湾が広がる

がんばれ神戸っ子

阪神・淡路大震災や病気で親を亡くした子どもたちを招待し、馬に乗って楽しい思い出を作ってもらおう催しを、馬術部が1998年から毎年続けています。12回目にあたる2009年11月23日には、子どもや関係者ら約50人が訪れ、部員のエスコートで乗馬して馬場を一周したり、馬にニンジンをやったりして楽しみました。



馬にニンジンあげる女の子



模型で乗馬の練習

馬術部の1日

午前3時40分。目覚まし時計が鳴る。部室に敷いたふとんで、泊まりの男子部員2人が身を起す。催促するような愛馬たちの鳴き声を聞くと、目が覚めてくる。

12頭分の朝ご飯を手分けして与え、体に異常がないかチェックする。このチェックのためにこそ宿直がある、と嬉しい。全部終わると4時過ぎ。朝の練習の集合時間まで、再び、つかの間のドリーミングタイム。

午前7時、部員集合。「馬に異常はありませんか」「今日も張り切っていきましょう」。主将の声が響き渡る。人の練習+馬の運動が始まる。先輩やコーチに教えてもらい、ビデオを撮ってもらって姿勢を確認し、自分のノートに反省をかく。ほかのスポーツに比べて練習時間が極端に短いので、効率良くするために様々な「乗って

いない時の努力」が必要なのだ。

1年生は馬房(馬の部屋)の掃除。オガと呼ばれる細かい木くずの上に、馬はポロ(糞)やヌレ(尿)をするので、毎朝汚れたところを新しいものに取り換えなければならない。

午前9時前、授業へ。その時限に授業のない日直は、運動の終わった馬を手入れする。蹄を洗い、体を拭き、時には全身シャワー、仕上げはブラシで艶々に。手入れのいい、きれいな馬体が、神戸大学馬術部の誇りだ。また日直は、厩舎の壊れたところの修理や、運動場の整備などもこなす。

日が暮れて4限が終わるころ、当日の宿直と女子の居残りさんがやってくる。手入れ後の片付け、馬たちの検温、運動内容の記録、夜ごはん。作業を終えた午後6時半ごろ、解散。居残りさんは帰り、後は宿直の男子2人が厩舎を守る。

午後8時半。人間の晩御飯が終わると、馬の夜食の時間。乾燥した草を馬房に入れる。健康的なポロをしているか、水は飲んでいるかをよく観察して、寒ければ服を着せてやる。一連の作業が終わると電気を消し、馬たちはスリープモード。宿直の二人は馬術部やお互いの未来について(?)、語り合いがつかない。

午後11時。最後の馬たちのチェック。夜食をちゃんと食べていると、ひと安心。人間も明日の起床にそなえて就寝。まれに他の部員がやってきて、麻雀をする猛者も。

こうして馬術部の長い1日は、ようやく終わる。

齋藤 寛(農学部3年)



試合前の練習。向こうに学生会館

馬場・馬術部

馬術部ファミリー

【部員】

男子13人、女子12人
計25人

【馬】

12頭(4歳~23歳)

【仲間】

犬:ハナ(雌、15歳以上)
猫:ゴメス(雌、?歳)



馬と並ぶ部員たち。試合では正装になる



ゴメス



ハナ



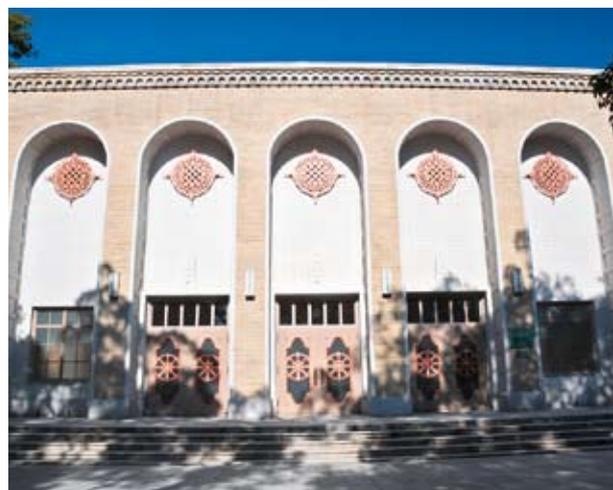
六甲台講堂再生

国の登録有形文化財で、神戸大学の代表的な建築である六甲台講堂が2009年秋、生まれ変わりました。前身校のひとつ・神戸商業大学の講堂として、六甲台キャンパスの一角に建てられて70年余り。老朽化が進んだため、全面的に修復されたのです。修復工事は、2006年末に始まった神戸大学基金の創設記念事業に位置づけられ、卒業生ら多くの方々から寄せられた募金が充てられました。とりわけ出光興産株式会社から、創業者の出光佐三氏が神戸高等商業学校（商大の前身）を卒業された縁で大きな支援をいただき、「出光佐三記念六甲台講堂」の名称で新しい歴史を刻むことになりました。

旧状残して風格維持

六甲台講堂は、1935（昭和10）年3月31日に建てられました。設計は文部大臣官房建築課、施工は大林組が担当し、総工費は11万4,050円でした。

中世ロマネスク様式の重厚かつ優美な2階建てで、当時の大学施設のスタイルとして流行していたネオ・ゴシックの角張った厳めしさと対極をなしています。外壁は淡黄色のスクラッチ・



正面。消失していた5連丸窓のグリルが、わずかな資料を手がかりに復元された

タイル張り。軒下は、ロンバルディア・アーチと呼ばれる小さなアーチの繰り返し模様のテラコッタ張りで仕上げられています。

正面玄関には深く背の高い五連アーチが並び、玄関の扉には国際貿易都市神戸にふさわしく船の操舵輪を模した装飾が施されています。扉の上部の壁面には帆船をイメージさせる幾何学的デザインが配され、アーチ最上部の丸窓は、ボルトナットで取り付けられた船の舷窓を連想させます。平面上は当時の公会堂などにみられる形式と同じで、玄関ホールからホー



2階席から。壁画が鮮やかに蘇り、緞帳が新調され、床は朱色からグレーに

施設概要 構造：鉄筋コンクリート造 地上2階建て
 改修延べ面積：1,007㎡
 客席数：514席（1階348席、2階164席、バリアフリースペース2箇所）
 工事期間：2009年4月～2009年9月

ルの両脇へと廊下を配し、2階には映写室をとっています。

修復工事は、工学研究科の足立裕司教授をトータルアドバイザーに、①文化財としての価値を高める旧状にそった修復②国際的なシンポジウムにも対応しうる空調・照明・音響・プレゼンテーション等設備の新設③緞帳や観客席など内装・備品の全面的更新などを基本方針にして進められました。足立教授は「新たな機能を付加するために何かを犠牲にするのではなく、できるだけ旧状を残すことで、歴史を経た建物のみが有する風格を維持したつもりである」と述べています。

当初、正面丸窓に付けられていたグリルは、わずかな資料と写真を手がかりに復元されました。老朽化に伴う応急的な手当てで損じてしまった箇所も、全面的に修復されています。形状の変更は最小限にし、機械室等の増設も建物の外に併設することで解決しました。

壁画

六甲台講堂は、舞台を囲むように描かれた巨大な壁画三部作でも知られています。神戸高商を卒業した洋画家中山正實（1898～1979年）によって描かれ、1938年に完成しました。壁画中央は「富士」、向かって右は「光明」、左は「雄図（ゆうと）」と題され、三位一体で重厚かつ優美な空間を作り出しています。

建物修復にあわせ、財団法人神戸大学六甲台後援会からの支援の一部を使用して修復されました。玄関ホール東側の壁には中山画伯の略年譜が掲げられ、パレットや絵筆、油つぼなど、画伯が壁画修復に使った画材も展示されています。



後部。板張りの壁、濃いグレーの座席で落ち着いた雰囲気



玄関扉を内側から。舵輪をかたどった飾り



2階席後部。装飾性の高い天井照明はそのままに

(神戸大学発行の「六甲台講堂」パンフレットから、工学研究科・足立裕司教授と百年史編集室・野邑理栄子講師の寄稿をもとに、広報室がまとめました)

卒業生のビジネスリーダーとの懇談会



経済界の第一線で活躍する卒業生と学長・理事が集い、大学の現状や課題、将来像を話し合う神戸大学ビジネスリーダー懇談会が2009年11月25日、東京・丸の内の神戸大学東京凌霜クラブで開かれました。

福田秀樹学長が同年4月に就任したのを機に、卒業生との絆をさらに強めるとともに、ビジネス体験に裏打ちされた貴重な提言をいただこうと、大学が初めて企画しました。企業の役員のうち、各社ホームページ等で卒業生と確認できた約520人を招待し、首都圏を中心に全国から46人が出席。卒業生の集いらしく、率直で温かい指摘や激励が続きました。

福田学長が平成16年度の国立大学法人化後の状況を報告し、土井亨理事(財務担当)が財務状況を説明した後、自由に意見交換する懇親会(写真)に移りました。参加者からは「今まで情

報が少なかった母校の現状がよく分かった」「参加者同士の横のつながりを持つことができた」と開催を喜ぶ声が聞かれました。一方で「地域性、国際性などで特色を持つべきだ」「世界の大学との競争の中で、もっと危機感を持ち、ドラスティックに改革してほしい」「基礎分野の学力と語学力の強化を」「実学教育の強化を」など、多くの提言をいただきました。

これを受け、福田学長は「貴重なご意見は執行部が責任を持って具現化します」と約束。最後に、単位同窓会の連合体である神戸大学学友会の高崎正弘会長が、しっかり意思決定できる組織を目指して会則を変更したことを説明したうえ「単位同窓会と同窓生との結びつきをさらに強めてほしい」と要望しました。

(社会連携課)

学生歌作曲の福本寿朗さん死去

本誌第12号(2009年10月発行)の「神戸大学生の愛唱歌」に、「学生歌 この丘陵に」が掲載されました。作曲者の福本寿朗さんは残念ながら、発行される少し前の同年5月15日に亡くなられていたことが、奥様(福本さわ様)からのお便りで分かりました。71歳でした。

福本さんは工学部計測工学科の1回生。学生時代は混声合唱活動に積極的に参画、1960年の全学合唱団「エルデ」発足の際に、中心的な役割を果たしています。3年後輩の土谷逸郎さん(1965年経済学部卒)から、福本さんご自身が手書きで作成した資料「神戸大学うたごえサークル小史=10回生の入学から卒業まで=」を頂戴しました。土谷さんは、「後輩の面倒見が良く、団一番の偉丈夫で本格的なバスの声だった」と回想しています。

福本さんは1962年に卒業、富士通信機製造(現富士通)に入社されました。神戸大学学生課が募集した「学生歌」の作曲の部に応募し、第2席(第1席は該当者なし)に入選が決定したのは、2年後のことです。小林俊彦さんの詞とともに、今日まで神戸大学の学生歌として歌い継がれて来ました。

音楽の才能が溢れる福本さんでしたが、社会人となってからは、音楽との接点は少なく、本格的な音楽とのかかわりは、富士通から日野ケーブルテレビへ移り、そこを退職してからのことです。卒業45周年(2007年)の同窓会で、教育学部卒の田村嘉栄さんの手によりオーケストラ用に編曲された「この丘陵に」が演奏さ



福本寿朗さん(2006年撮影、ご家族提供)

れ、これを機に同期生たちとの新たな交流が開かれたそうです。同期の松永成彬さん(経営学部卒)夫妻が主宰する音楽を通じたボランティア活動に参加しました。特別養護老人ホーム等での演奏活動です。福本さんは、歌、ハーモニカ、ウクレレ、ピアノと幅広い活躍ぶりをみせる貴重な存在だったそうです。

(東京オフィス コーディネーター 植村 達男)

農学部創立60周年 記念行事を開催

神戸大学農学部は、1949年(昭和24年)に丹波篠山(兵庫県篠山市)で産声を上げ、2009年創立60周年を迎えました。大学関係者および同窓生が一堂に会し、農学の役割と未来を語り、相互に連携し懇親を深めるべく、同年10月31日、「神戸大学農学部創立60周年記念行事-記念式典・講演会・祝賀会-」(参加者総数288名)が開催されました。また、式典に先立ち、保護者向けの新装学舎見学会(18名参加)も開催されました。

記念式典では、農学部長式辞、神戸大学長挨拶、来賓祝辞、六篠会会長挨拶があり、農学部の果たすべき役割、農学部への強い期待が述べられました。同窓会として、顕著な研究業績に対する表彰制度「六篠賞」の創立が表明されました。記念講演では、青山学院大学教授福岡伸一氏「生命を解くキーワード、それは“動的平衡”」、作家玉岡かおる氏「みどりの民の挑戦の跡、国を支えた農の魂」があり、自然、生命、環境の意義や農の重要性について語られました。祝賀会は、神戸大学生協LANSBOX 1階食堂でもたれ、楽しいひとときを過ごしました。また、記念誌・写真集では農学部に関する変遷がつぶさにまとめられています。

(農学研究科教授・学術広報委員長 田中 勉)

参考URL

神戸大学農学部ホームカミングデイ: <http://www.ans.kobe-u.ac.jp/homecoming/index.html>
 神戸大学農学部創立60周年記念行事: <http://www.ans.kobe-u.ac.jp/gakubu60/index.html>



創立当時の兵庫県立農科大学構内

農学部略史

1949年	4月	兵庫県立農科大学開学(現 兵庫県篠山市)
1952年	4月	兵庫農科大学に改称
1966年	4月	神戸大学に国立移管し農学部を設置
1967年	10月	農学部学舎の六甲台移転完了
1972年	4月	大学院農学研究科設置
1981年	4月	理工農3学部を母体とする大学院自然科学研究科(後期3年の博士課程)を設置
1993年	4月	5学科12大講座に学部改組
1994年	4月	理工農3研究科を改組・統合し大学院自然科学研究科前期課程を設置
2004年	4月	国立大学法人神戸大学農学部となる
2007年	4月	農学研究科を設置(大学の重点化)
2008年	4月	3学科6コースに学部改組



記念行事で鏡割りをする福田秀樹学長ら

第1回 学長表彰

神戸大学は2009年11月12日、本学で初めてとなる学長表彰を行いました。教育研究、事務運営、その他業務上の功績が極めて顕著であると認められる教員及び事務系その他の職員に対し、その功績を称えらるとともに、今後の一層の活躍を願って学長から表彰を行うものです。

学長表彰には個人3名と1グループが、特別賞には3グループの方々を選出されました。

表彰式は出光佐三記念六甲台講堂で行われ、福田秀樹学長は冒頭の挨拶で「教員以外の職員をも対象にした表彰は、他大学の例を聞きません。神戸大学の発展は、教員と職員が一体になってこそという強い思いから制定しました」と述べました。その後、被表彰者(代表者)は順に壇上に上がり、学長から額に入っ

た表彰状と副賞を受けました。

(人事課)





対人関係は苦手、でもすばらしい能力も・・・

「発達障害」の方に理解と支援を！

「発達障害」とされる人が増えてきているといわれます。アメリカの統計では1996年から2007年の間に7倍以上に増えたとされ、イギリスでも同様の統計結果が出ています。日本でも、文部科学省が平成14(2002)年に4万人の通常学級に通う小中学生を対象に行った調査で、「発達障害」を疑われる児童生徒の率が6.3%に達していました。

独創的な能力を発揮する人も

「発達障害」は自閉症やアスペルガー症候群、注意欠陥／多動性障害などの総称で、“認知力(ものごとを認識し判断する力)”や“学習力”、ものごとに対する“注意力”、周囲とのコミュニケーションや社会性などに偏りや問題があり、生活していく上でさまざまな困難をきたす障害のことをいいます。生まれつきのもので、家庭環境や親の養育上の問題ではないことがわかっています。症状が軽い場合、知能や言葉の発達には問題なく、幼少時には「少し変わった子」と見られるだけで、大学に入ってから人間関係のトラブルを起こして発見されることも少なくありません。一方、「発達障害」の人には独創的な能力を発揮する人も数多く、世界的な著名人の中に「発達障害」の人がいることもよく知られています。そのため、「発達障害」の人たちが直面する困難を理解し、その能力を生かせるようサポートすることが、大学や社会に求められているのです。

対人関係に困難があるタイプ、「注意力」に困難があるタイプ

「発達障害」にはいろいろな種類がありますが、大学をはじめとする学校で問題になることが多いのは、対人関係に困難があるタイプ(自閉症、アスペルガー症候群など)と、「注意力」に困難があるタイプ(注意欠陥／多動性障害)の2つです。ただ、この2つはオーバーラップすることもしばしばあります。

コミュニケーションが苦手で“こだわり”が強い

対人関係に困難があるタイプの人の特徴は、コミュニケーションが苦手で“こだわり”が強いことです。私たちは誰かと話をする時、言葉だけでなく、相手の眼(アイ・コンタクト)や表情、身振り、声のトーンなど、言葉以外のもの(非言語的コミュニケーション)を介して相手の気持ちをキャッチしています。大学に入学することのできる「発達障害」の人たちは、知能や言葉に問題を持つことはほとんどなく、非言語的コミュニケーションを介して相手の気持ちをキャッチすることが苦手なのです。例えば、相手が言葉では「YES」と言っているのに、実際には嫌がっているような状況が理解できないのです。また、自分の気持ちを言葉以外の方法で伝えることも苦手です。楽しみや興味、達成感を誰かと分かち合いたいという気持ちが薄いので、



(図1) 心理検査「サリーとアンの課題」(本文参照)

年齢相応の友人関係や仲間関係を作ることも苦手です。初対面なのに一方的に馴れ馴れしく振る舞って、相手に戸惑われてしまうこともあります。また、上下関係、礼儀、節度などに配慮しないため、トラブルの元になることもあります。

相手の立場に立って相手の気持ちを考える能力を計る「サリーとアンの課題」という心理検査があります(図1)。

- ①サリーとアンが部屋で一緒に遊んでいました。
- ②サリーはおやつを赤い箱に入れて部屋を出て行きました。
- ③サリーがいない間に、アンがおやつを青い箱に移しました。
- ④サリーが部屋に戻ってきました。サリーはおやつを取り出そうと最初にどちらの箱を探すでしょう?

という問いかけです。4歳以上の子どもは、「赤い箱」と答えることができますが、発達障害の子供の多くは「青い箱」と答えることが知られています。つまり、相手(この場合はサリー)の身になって考えることが難しいのです。

また、狭い範囲のマニアックなものに熱中し、こだわりやすいことが知られています。たとえば、「世界中の蝶の名前を言うことができる」などです。また、特定の習慣や手順にこだわりを持ち、いつも同じようにすることを望む傾向があります。それを変えなければならない時に強いストレスを感じ、ひどい場合にはパニックに陥ります。他の人にも自分と同じようにすることを要求する場合には、トラブルの原因にもなります。

落ち着きがなく衝動的な行動も・・・

一方、「注意力」に困難があるタイプの方は、落ち着きなく動き回ったり、衝動的な行動をとったりします。「注意力」には1)注意を一つのこと集中し続けること、2)

必要があれば、幾つかのことに注意を配分できること、
3)状況に応じて注意をあることから別のことに移すこと
の3つの面があります。これらの“注意力”がうまく働か
ないことは、レポートが期限に間に合わない、間に合っても
纏まりがなく冗長で何が言いたいのかわからない、遅刻を
繰り返す、部屋が片付けられない、次々と物をなくす、複数
の課題をこなせないなどの結果として現れます。また、衝
動性をコントロールしにくいと、落ち着きがない、自分
の順番を待てない(並べない)、衝動的な行動をとって余計
なことをしてしまうなどといったこととなります。

トラブル回避へ周囲の理解が大切

「発達障害」の人たちは、どちらのタイプであれ、周囲の
人との関係の中で不安や葛藤を持ちやすい状態にありま
す。しかし、それらの不安や葛藤を自分の心で感じ取った
り適切に表現して周囲に理解を求めると自分が難しく、
頭痛や腹痛、吐き気などの身体症状や、不眠、うつ症状、パ
ニック、自傷行為(自分の頭を壁に打ち付けたり、手首を
切ったりする)などの“二次的症狀”を起こすことがあり
ます。また、人間関係のトラブルが続いたり、いじめられた
り、孤立することも多く、不登校、引きこもり、休学、退学と
いう事態につながることも珍しくありません。

周囲の人には、「発達障害」の人たちが「空気が読めない」、さらには「失礼」「悪意をもっている」と感じられるこ
とがあります。しかし、「発達障害」の人たちにも悪気はな
く、むしろ人間関係が思うようにいかないことや周囲の期
待にうまく添えないことに苦しんでいるのです。周囲の人
がそのことを理解して、本人のペースを尊重してあげるこ
とがとても大切です。



(図2) 保健管理センターにおける
「からだの健康相談」(上)と
「こころの健康相談」(下)



● お問い合わせ

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
[神戸大学保健管理センター] ☎078-803-5245
〒658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1
[神戸大学保健管理センター深江分室] ☎078-431-6232
〒650-0017 神戸市中央区楠町 7-5-1
[神戸大学保健管理センター楠分室] ☎078-382-5006

有効な薬やカウンセリングも

「発達障害」の全てを根本的に解決する治療法は、残念
ながらまだ発見されていません。しかし、特有の“こだわ
り”やうつ症状に対して SSRI(選択的セロトニン再取り
込み阻害剤)という薬が有効なことがありますし、“注意
力”に困難がある人に対して中枢神経刺激剤という薬が
効くことも知られています。また、経験のある治療者にカ
ウンセリングを受けることは、自分の障害を知り、受け入
れ、上手につきあっていく上で大きな支えを提供してくれ
ることでしょう。

大学生活での支援は・・・

「発達障害」の人たちは大学生活の中の次のような場面
で躓くことがしばしばあります。

- 履修登録のしくみを理解する
- 授業を集中して聞き、板書をまとめてノートに取る
- キャンパスになじんで仲間を作る
- 好意を持った異性に適切にアプローチする
- ゼミ等のグループで人間関係を円滑に保つ
- 演習や実験、実習で適切に振る舞う
- 試験・レポート・卒業論文などで評価を得る
- 就職活動で筆記試験後の面接に受かる

などです。

神戸大学では、保健管理センターと所属学部・研究科の
授業担当教員、学修指導教員、学生委員、教務委員、アドバ
イザー制度を導入している学部ではアドバイザー、教務学
生係等が連携して、「発達障害」の人たちへの支援を行って
います。「発達障害」の方、当てはまる特徴がたくさんあつ
て「発達障害」かどうか心配だという方、その家族や教員の方
など、いつでも保健管理センターへお越しください。大
学が提供する支援には限界もありますが、困難を一人で
抱え込まず、まずは気軽に相談してください。

参 考

田中康雄, 編: ADHDとLD, こころの科学 145 : 12, 2009
Simon Baron-Cohen: Autism and Asperger Syndrome (The Facts).
Oxford University Press, 2008
十一元三, 編: アスペルガー障害, こころのりんしょう a-la-carte, 25:138,2006
文部科学省ホームページ
(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/01/04013002/001.htm)
日本学生支援機構ホームページ
(http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/guide/top.html)

保健管理センターは・・・

六甲台キャンパス(本部管理等2階)と深江キャンパス、楠キャン
パスにあり、毎年の健康診断やその結果に基づく再検査・精密検
査をはじめ、日常の救急処置、健康相談(「からだの健康相談」、「こ
ころの健康相談」)、保健指導、健康教育、産業医活動、調査研究
活動などを通じて、学生や職員の皆さんの健康をサポートしていま
す。また、名谷キャンパスには「からだの健康相談」のための保健管
理室と「こころの健康相談」室が設置されています。

● 保健管理センターだより 76

(神戸大学広報誌「六甲ひろば」から引き続き連載)
保健管理センターの詳細につきましては、
保健管理センターホームページでも案内しています。
<http://www.kobe-u.ac.jp/medicalc/index-j.html>



神戸大学ロゴマーク

■ デザインは工学部学生

創立百周年を翌年に控えた2001(平成13)年12月、神戸大学創立百周年記念事業検討委員会「ロゴマーク作製に関する作業部会」(部会長は発達科学部教授(当時)中山修一)は、神戸大学の教職員、学生、卒業生を対象としてデザインを募集した。このとき留意されたのは“国際交流の場でも使用できるものを目指す”ことであった。旧来の「神戸大学学旗」は漢字で大きく「大学」と記されており、漢字文化圏以外の国には通用しにくいという欠点があった。そのためロゴマークでは、海外への発信を考慮して「大学名は、英字を使用すること」が募集要件の一つとされた。

募集の受付は翌2002(平成14)年2月に締め切られ、応募者84名から121作品が寄せられた。その中から工学部4年生(2002年5月当時)の山下賢一郎氏の作品が最優秀賞に選ばれた。この現役学生の作品を原案としてロゴマークが完成し、5月9日に学長室で表彰式が行われ、5月11日開催の神戸大学創立百周年記念式典において公式に初披露された。

神戸大学ロゴマーク

2002(平成14)年に神戸大学は創立百周年を迎えた。その記念事業の一環として同年作成されたのが「神戸大学ロゴマーク」*である。現在ロゴマークは神戸大学の公式ホームページ、公式行事案内、各種広報物、教職員の名刺、封筒や便せんなど多様な場で活用されており、神戸大学の新しいシンボルとなっている。

■ ロゴマークの意味

ロゴマークのデザインは、2羽の鳥が神戸大学から世界に羽ばたく様子を表している。2羽の鳥は神戸大学の英文名「Kobe University」の頭文字「K」を象徴化したものであり、本学のシンボルカラーであるBrick Color(ブリック・カラー)を配色している。1羽ではなく2羽の鳥を配置したのは、本学が理想に掲げる「真摯・自由・協同」の精神のうち「協同」を表現するためである。鳥が描く丸い大きな2つの軌跡は、全体で地球を表しており、六甲山から国際貿易都市神戸の港を望む神戸大学らしく、上部のグリーンは山、下部のブルーは海をイメージしている。2羽の鳥はそれぞれ「自由」に大きな軌跡(=個性)を描きながら、山や海を渡り大空(=世界)へと羽ばたき、時には互いに助け合いながら進み行く。互いの個性を尊重しつつ、共に手を取り、広い世界に飛翔する神戸大学の理想を表現したものとなっている。

このロゴマークは神戸大学の新しいシンボルとして、これからも全世界に発信し続けていくことだろう。

(神戸大学百年史編集室講師 野呂理栄子)

*ロゴマークの著作権者は国立大学法人神戸大学であり、使用するには大学の許可が必要です。

表彰された入選3作品



最優秀賞：山下賢一郎氏(工学部4年、2002年5月当時)

優秀賞：三宅 大地氏(経営学部2002年卒)

佳作：橋本 健治氏(工学部1968年卒)・橋本例子氏(教育学部1970年卒)合作

神戸高等商業学校校歌・神戸商業大学学歌

商神

荘重に
♩ = 112 Allegretto

忠田 兵造 作詞
米田虎之助 作曲

しょう しん あ やな す つ ばさをあ げ て
れ いじょう は るか に ひ がしをさせ ば
く しき このみ は く もまを も りて
あきつ しまねに おつとぞ み えしと ころは
ここそき くすいか お るみ なとがわら のち
かきほとりに か くつ たわりし あ めのさとし
も ひ とは さ とらで い くとせかへぬ

一、商神彩なす翅をあげて
靈杖遙に東を指せば
靈しき果実は雲間を漏りて
秋津島根に落つとぞ見えし
所はこ、ぞ菊水かをる
湊河原の近きほとりに
かく伝はりし天のさとしも
人はさとらで幾年か経ぬ

二、神の息吹のこもりて成りし
靈果いかでか地に朽つべき
豊稔昇る朝日のかげに
八洲の外の潮風吹きて
いつしか催す気運に乗じ
わが学舎ぞ世に生れたる
眠る商界夢さますべき
使命は天の授けし所

八、あ、芳はしき桜の国の
咲くや此花難波津近く
帆船黒船出入しげき
神戸は我等の北溟なるぞ
鵬翼図南の時至る迄
いざや静に学び修めて
祖国の栄を我等祈らむ
我等の栄を神に祈らむ

明治39年3月神戸高等商業学校校友会歌(校歌)として発表された。8番まである歌詞は同校本科1年生忠田兵造の作詞で、作曲は兵庫庫御影師範学校音楽教諭米田虎之助による。「商神」とはギリシア神話のヘルメス(ローマ神話のマーキュリー)を指す。世界に飛翔し眠れる商界を叩き起こすのは我々だと誇り高く謳い上げたこの歌は、国際舞台で活躍する人材の育成を目指した初代校長水島鍊也の教育理念の現出であった。大学昇格後も学歌として引き継がれ、今なお広く歌い継がれている。

(神戸大学百年史編集室)



<http://www.kobe-u.ac.jp>

神戸大学広報室 発行 2010年 4月 1日

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL.078-803-5022 E-mail : ppr-kouhousitsu@office.kobe-u.ac.jp